



発行／小諸市公民館
編集／館報編集委員会
〒384-0801
長野県小諸市甲1275-2
☎0267-23-8880

No.801



強い霜がきた
切れ間なく惜しげなく
舞い散る木の葉
吐く息白く
信濃路の秋は暮れる

甘利 滋子

五行歌で
四季をうたう

〈五行歌とは〉思ったことをそのままのことばで、五行に表す新しい形式の歌。全音数や季語などの制限はありません。

こもろ五行歌の会

※写真撮影は会員の倉本妙子さん

ある日の編集委員会でのこと。「十日夜の藁鉄砲」という伝統行事が話題にのぼりました。市内でも公民館活動の一環としてこの行事を継承している地区があるようですが私が育った地区では行なっていないだったので、「十日夜の藁鉄砲、夕飯食ってぶったたけ」というフレーズを聞いたことがあっても、作り方も由来も知りませんでした。「藁の中にみょうがの茎を入れる」ということは初耳。「(自分が)子どもの頃は、藁鉄砲で子ども同士が叩き合っていた」なんて話も飛び出し、ますますビックリしました。肝心の由来についても、地面の中のもぐらを追い出すためと思っていました。調べてみると、十日夜にあたる旧暦10月10日は、稲の収穫が終わって田の神様が山に帰る日とされておられ、その年の収穫に感謝し、地の神を励ますための行事でもあるのだそうです。それにしても、お盆の迎え火、送り火といい、年越しのしめ縄といい、日本の伝統行事と稲わらは切ってもきれないものですね。

編集委員 金子 美江

